

平成 2 4 年 度

## アイヌの伝統的生活空間の再生事業に関する検証・評価

<u>白老地域</u>	.....	1~5ページ
<u>平取地域</u>	.....	6~9ページ
<u>札幌地域</u>	.....	10ページ
<u>連携促進事業その他の取組</u>	..	11~13ページ

平成24年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業に関する検証・評価

<白老地域>

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
推進体制	教育（学習）型イオルを指向し、実践的な活動を通じた伝承者の育成や、アイヌ文化の体験を通じた普及啓発活動を実施	白老町においてアイヌ協会白老支部・アイヌ民族博物館で構成する白老地域イオル検討委員会を設置し、事業計画・管理運営などについて協議。	<H18～23> ・ 財団と白老町とで協議を行いながら事業の推進管理を実施。 H23から白老町に事業を一括委託し、町の管理の下で、事業を推進している。	<H18～23> ・ 自然素材の育成、試験栽培、空間の整備（コタンの再生）等を通じて、将来に向けて白老地域のアイヌ文化を護り継ぐ効果的な教育（学習）型イオル事業が展開されている。	<H18～23> 事業主体である町役場や白老モシリとともに、アイヌ協会白老支部、アイヌ民族博物館など、地域の関係機関が連携して運営体制を強化。
			<H24> ・ 白老町の管理の下で事業の推進管理を行った。		
空間形成	空間整備 空間整備（コタンの再生）→教育（学習）型イオルの拠点の形成	白老イオルの拠点となるポロト地区のコタンの再生 ・ チセの復元 ・ チセ周辺の環境整備	<H18～23> ・ チセの復元（4棟）、プ（食糧庫）・ヘベレツ（熊檻）の復元（H20～22） 周辺環境の整備 ・ チセの防虫・防腐のための燻蒸作業の実施 ・ 復元したチセにおいて、体験交流事業、 ・ 伝統的衣装の製作などを実施 森野地区から樹木を移植（H23）	<H18～23> ・ 民族博物館の伝承専門員や学芸員により、チセの建築技術、カヤの採取方法等の伝承が図られた。（H20～22） ・ コタン再現地に森のから樹木を移植し、チセ周辺の環境整備が図られた。	<H18～23> ・ チセを長期間維持するためには、日常的な維持管理業務が重要。 ・ チセが劣化した際の葺き替え用のカヤの確保策について検討しておく必要がある。 ・ 見学者も増えてきているが、見学者向けのサービスが必要。 ・ チセを活用した事業の検討
			<H24> ・ チセ4棟のカヤ（注参照）の防虫・防腐作業のための火守業務を実施 ・ チセにおいて伝統的衣装の製作や体験交流事業を実施	<H24> ・ 強風によりプ（食料庫）が倒壊した。	<H24> ・ プの復元の検討。
			・ 丸木舟等の復元  <H23> ・ 富良野東大演習林からカツラ原木を採取し、丸木舟、イタオマチップを復元。  <H24> ・ 復元した丸木舟等を展示保管する上屋を整備。	<H23> ・ 伝統的な丸木舟が復元され、今後、この舟を活用した事業展開が可能となった。  <H24> ・ 周囲の景観に合わせた形で整備できた。 ・ 体験交流事業で、直接手に触れてもらうなど周知が図られた。	・ 丸木舟の材の乾燥化に伴うひび割れ対策が必要。

・注「カヤ」には、ヨシ、ツルヨシ、ススキを含む。

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
空間 形成	植栽 事業 →自然素材の確保のための樹木等の植栽	アイヌ文化の伝承に必要な自然素材植栽 ① 陣屋地区 水性植物の栽培	陣屋地区（約20㎡） <H18~23> ・ 18・19年にガマ、フトイ、ミクリ、サンカクイを約2,000株植栽 ・ 毎年、植栽物の生育管理・除草  ・ 生育状況の調査を行う。(H23)	・ ガマについては、ゴザ編み材料としては、細すぎる物が多く、材料として利用できるまで2~4年要する ・ 史跡の管理者である町教委が財政的事情により掘割への給水を中止したことにより、生育が芳しくなくなった。 ・ 調査の結果、雑草除去・水位対策が必要	・ 調査結果に基づき、水位の確保や雑草の除去を行う必要がある。
			<H24> ・ 雑草除去等育成管理（ガマ・フトイ・ミクリ・サカサ）水位対策を実施 ・ 全体的に生育不良のため収穫見送り ・ 町内生育地より根の移植(50本)。穂を団子状にして植栽。	<H24> ・ 水位対策の効果は若干あったが、雨量が少なく生育に大きな変化はなかった。 ・ 秋に根等を移植し、来年の生育に期待したい。	<H24> ・ 根等を移植した後の生育状況次第ではあるが、状況に変化がない場合、植栽箇所の変更について検討必要。
		② ポロト自然休養林地区 樹木の植栽	ポロト自然休養林（2ha） <H18~23> ・ 18年にオヒョウ、シナノキなど10種類、約1,500本植栽 ・ 毎年、下草刈り、支柱の補修、シカによる食害を防ぐためネット張りを実施。 ・ 活着状況、全体で70%	・ 全体として70%以上の活着状況で、概ね良好。(H22) ・ 活着状況が良い樹木と、悪い樹木あり。 ・ 成長が早い樹木は、今後被害が受けられないと思われる。(H23)	・ 生育状況が悪い樹木については、専門家による栽培指導を受けるなどの対策が必要。 ・ 成長した樹木の間引きが必要。
			<H24> ・ 定期巡視、下草刈り等育成管理 ・ 鹿食害対策で、丸太支柱で囲みネットを張る。	<H24> ・ 鹿対策実施樹木には、大きな被害はないが、鹿の角により一部ネットの破損が見られた。	<H24> ・ カワ、ツバ、キダで鹿対策未実施の幹の細い樹木が被害に合い対策が必要。角によるネット破損を防ぐため、より強固な防御策等の検討が必要。
		③ ポロト地区 樹木の植栽	ポロト地区（1,2ha） <H18~23> ・ 18年に樹木12種類300本、ツル系樹木7種110本、野草3種300株を植栽。 ・ 木道300mを整備、解説板設置。 ・ 毎年、下草刈り・支柱・木道の補修・補植を行っている。 ・ ツル系樹木5種を森野地区に移植 ・ 森野地区から間引きした樹木を移植57本。 ツル系樹木の成長が良くないこともあり、全体に施肥作業を実施(H23)。	・ 樹木の活着状況は、ホウノキ、キタコブシを除き良好。 ・ ツル系の樹木では、活着状況にバラツキがあり、埋立て土砂が原因として考えられる。	

項目		事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
空間形成	植栽		③ ポロト地区	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期巡視、草刈、木道防腐処理の維持管理。</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生育状況は、ホウノキを除き、他の10種は、活着率85%以上で良好。</li> <li>昨年、森野地区から移植(57本)した樹木も順調に根付いている。</li> </ul>	
自然素材育成	栽培植栽	栽培・植栽事業	④ 森野地区 穀物の栽培、樹木の植栽、有用・薬用植物の栽培	<p>森野地区(1ha)</p> <p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>18年より穀物(ア・ヒ・ト)の試験栽培を開始。</li> <li>毎年、種子を播種し、間引き・除草・防鳥ネット張り・収穫・土壌改良を実施。</li> <li>22年収穫量約180kg</li> <li>18・19年に苗木15種1,300本植栽。</li> <li>19年にア・マ・ツガ・ネズ・ソ・カサなど18種の有用・薬用植物を植栽。</li> <li>毎年、除草・補植を実施。</li> <li>樹木の成長により密植してきたため間引きを実施。(H23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シカによる食害への対策が必要</li> <li>樹木などは、長期に渡る維持管理が必要となることから、維持管理の負担軽減策も検討する必要あり。</li> <li>チセ周辺とポロト地区に森野地区から植栽樹木を移植し、環境整備が図られた。(H23)</li> <li>霜害により穀物に収穫が減少した(H23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本格栽培に向け、試験栽培での課題や栽培に適さない品種等の対策が必要</li> <li>鹿による食害対策を継続する必要がある。</li> </ul>
				<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>穀物栽培で、ア38kg、ヒ40kg、ト27,5kg</li> <li>草刈、有用植物栽培地の除草・施肥等を実施し、樹木・有用植物の生育管理。</li> <li>間引きが必要な樹木を、エリア内(83本)と隣接地に移植(111本)。</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>穀物の収穫が、昨年比でトは5倍弱、ア・ヒ2倍近くになり良好であった。</li> <li>白老町の協力支援により隣接地を借用でき樹木の移植場所が確保できた。</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有用植物の充実(山取りし移植した有用植物が増殖していない)。</li> <li>収穫物の活用行事の拡大</li> </ul>
			⑤ ヨコスト地区 海浜植物の栽培	<p>ヨコスト地区(300㎡)</p> <p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>18年度は海浜植物3種(ハマボウフウ・ハマヒルガオ・ハマノ)を苗で移植したが、翌年度から種子により栽培。</li> <li>ハマボウフウについて生育状況調査を実施(H23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種子で植えた物は、順調に生育しているが、親苗を増殖するため収穫までには、時間が必要。</li> <li>苗を移植したハマボウフウは成長が良くなく株が減少している。(H23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハマボウフウが自生できる植生環境の保全が必要。</li> <li>生育状況調査結果に基づく対策(株移植の時期等)が必要(H23)</li> </ul>
	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期巡視、除草、柵防腐処理実施</li> <li>ハマボウフウ(種)、ハマヒルガオ(種・苗)、ハマノ(種・樹木)を捕植した。</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハマボウフウの茎を体験事業で利用。</li> <li>ハマヒルガオは、種から栽培すると生育が良かった。</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種・苗による生育状況の結果を基に、増殖に向け、工夫が必要。</li> </ul>			

項目		事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
空間活用	体験交流	体験交流事業 → アイヌ文化への理解の促進を図るための体験交流事業を実施	山・川・海において体験交流事業の実施	<H19~22>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育（学習）型イオルとして主に児童・生徒を対象に実施した。</li> <li>この事業をとおして、白老地域のみにとどまらず近隣市町の住民にも参加を促し、アイヌ文化の体験と理解の促進が図られている。</li> <li>23年度、宿泊体験への参加者が少なく、日帰り事業に変更。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育型イオルとして、体験交流事業が担う役割は大きく、多くの子どもたちに、アイヌの生活・文化を理解させていくために目標・ねらいを明確にした上で実施していくことが必要。</li> <li>今後、参加者が増えた際には、参加者からの一部負担について検討が必要。</li> <li>アイヌ民族博物館との連携策、棲み分けを検討</li> </ul>
				<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイヌ文化に係る様々の体験交流事業を実施</li> <li>①海のイオル体験交流事業 3回(地引網2回・食文化体験1回)</li> <li>②山のイオル体験交流事業 3回(有用・薬用植物学習会・森のアイヌ文化体験(宿泊)・冬の遊び)</li> <li>③川のイオル体験交流事業 2回(マルク・ラカマフ・竹の解体)</li> <li>④アイヌ文化体験・体感交流事業 1回</li> <li>⑤ミニ体験交流事業 15回 全体24回。参加者数 834名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業内容の充実が図られ、参加者の増加につながった。</li> <li>事業により参加者数の偏りがある。</li> </ul>

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題等
空間 管理 運営	運営 イオル事務所「チキサニ」の運営	普及啓発、情報発信業務	<p>&lt;H20~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 20年にしらいイオル事務所「チキサニ」を開設。</li> <li>・ アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供。</li> </ul> <p>利用者数 H20 2,072人 H21 2,061人 H22 2,079人 H23 2,066人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統刺繍作品展3回開催 (H23)</li> <li>体験実施状況をパネル展示 (H23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イオル事務所への来訪者や事業参加者へのイオル事業等に関する説明、企画展等のイベントを通じて、アイヌ文化への理解の促進が図られている。</li> </ul>	
			<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイヌ民族や文化に関する学習機会や情報を提供。</li> </ul> <p>利用者数 3,004人 (H25.3末現在)</p> <p>体験交流事業実施 8回 伝統刺繍、J'sa 作品展 4回開催 体験実施状況パネル展示 アイヌ文化普及啓発出前講座 (4回, 237名)</p>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コタン再生地の見学者も増えている傾向があり、若干であるが情報発信の効果が出てきている。</li> <li>・ 学校と連携し、出前講座を始める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チセ等の活用をさらに増やす必要がある。</li> </ul>
管理 運営	管理運営事業 → 白老町役場による関係機関等との連絡調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的に管理運営するための関係機関との連絡調整等</li> </ul>	<p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白老町がアイヌ協会白老支部、アイヌ民族博物館等との連絡調整を実施</li> <li>・ 平成18年策定の「白老地域計画シラコラチ」を基本に、白老イオル連絡調整会議、白老地域イオル検討委員会等を開催し、白老地域での事業の検証及び計画の素案を調整。</li> </ul>	<p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域での優先度を勘案し事業計画を立て実施した。</li> </ul>	
			<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町役場が主体となり関係機関と連絡調整を行い事業を実施。</li> </ul>		

<平取地域>

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
推進体制	事業の推進体制 →活動型イオルを指向し、イオルの森等における植栽、試験栽培を行うとともに、コタン等での伝承活動を実施	財団が直接執行するもの他、業務の内容に応じ地元平取町に委託し、実施。	<H20~23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空間の整備（コタンの再現）、自然素材の試験栽培等を通じて将来に向かって平取地域のアイヌ文化を語り継ぐための活動型イオルの形成の促進が図られている。</li> <li>空間の管理運営及び活用を図るため、その実務を担う地元における組織の整備が必要。</li> <li>平取町アイヌ文化振興推進協議会の下に設置されているイオル専門委員会が推進管理にあっており、地元での協調体制が出来てきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町のアイヌ文化推進協議会に、学識者も参画し、地元の関係団体との協働により事業の推進を図ることが必要。</li> <li>地元における事業執行の実務を担う組織・体制を早期に確立が必要。</li> </ul> <p>地元における事業執行体制を確立すること。</p>
			<H24>		
空間形成	空間整備 → 平取地域の核となる空間の整備	コタンの再現(二風谷地区)	<H20~23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平取地域のイオルの核となるコタンの形成が促進されている。</li> <li>チセの復元を通して、復元技術や伝統儀礼の伝承が図られている。</li> <li>アイヌ文化伝承活動の見学者が、多く訪れ理解の促進が図られている。</li> <li>チセの復元技術や伝統儀礼の継承が図られた。(H23)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復元したチセのさらなる有効活用と効率的な維持管理について検討が必要。近隣にカヤを採取できる場所が無くなっており確保対策が必要。</li> <li>出来る限り負担の掛からないチセの維持管理システムの検討が必要。(中長期)</li> <li>中長年にチセ復元等、世代間の担い手育成が必要</li> <li>伝統工芸の技術を継承していくための実習と人材育成に取組む必要がある。維持管理とチセの利活用。(H23)</li> </ul>
			<H24>		

項目	事業名・事業概要	事業項目		評価	今後の課題			
空間 活用	試験 栽培 → 自然素材の確保を図るため、イオールの森の整備、二風谷地区等での試験栽培を実施	イオールの森の造成 → イオール型複層林の造成 現況調査 苗畑試験栽培 選木択伐施業 樹木の植栽	<H20~23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオールの森の現況調査の実施</li> <li>・二風谷地区の苗畑に山出し稚樹の幼苗（オヒョウ）</li> <li>・「イオールの森実験研究計画」策定</li> <li>・平取町がイオールの森の条例制定</li> <li>・択伐施業に向けた選木調査実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現況調査により、有用樹木の不足が明白となった。</li> <li>・苗木（稚樹）の活着率は、72%で概ね良好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオールの森（移植先）での食害対策についても効率的、効果的な対策が必要。</li> <li>・択伐施業、搬出についての専門的な技術、知識、能力を有した者の協力を得ることが必要。</li> <li>・育成管理が長期に渡ることから、必要とする素材の量に見合った植栽とすることが重要。なお、植栽に当たっては、専門的な技術指導の元で実施することが必要。</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高国有林より苗630本移植（H23）</li> <li>・イオール型複層林施業実施（H23）</li> <li>・択伐213本、植樹625本</li> <li>・草本試験栽培（H23）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた期間、作業員の中で、効率的に作業が進められた。（H23）</li> <li>・21年度に移植した草本の活着率</li> <li>・草本キョウジャニンニク99.8%</li> <li>・育苗箱ポット456本、パレット84本</li> <li>・木本1,351本、活着率98.2%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（中期的）中長期を踏まえた実験研究計画に基づく管理運営が必要。</li> <li>・択伐施業は、選木から専門的知識を有した方の指導が必要。（H23）</li> <li>・当面、必要とする素材を確保するための近隣の生育状況の調査が必要。（H23）</li> </ul>			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 稚樹の払下げ、移植</li> <li>・自然素材（木本）の試験栽培、択伐施業</li> <li>・自然素材（草本）の試験栽培、択伐施業</li> </ul>	<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日高国有林より苗520本移植</li> <li>・イオール型複層林施業</li> <li>・択伐257本（予定）、植樹790本</li> <li>・草本試験栽培キョウジャニンニク356本、材カユリ78本</li> </ul>	<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた期間、作業員の中で効率的に作業が進められた。</li> <li>・木本、草本ともに順調に成長している。</li> </ul>	
		二風谷地区 → 丘畑での穀物栽培	又ブカトイ（丘畑） 3,872㎡	<H21~23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穀物（アワ、ヒエ、キビ等）の試験栽培、生育管理</li> <li>・23年度の収穫量 アワ15kg、ヒエ37kg、キビ223kg</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫物の地域での活用策を立て、計画的な栽培を行うことが必要。</li> <li>・他地域への素材提供に向け提供要領を検討（H23）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培を継続的に実施し、栽培技術の確立が必要。</li> <li>・先行実施地域として、道内の伝承活動実践者への素材提供体系の検討が必要。</li> </ul>	
				<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穀物（アワ、ヒエ、キビ等）の試験栽培、生育管理</li> <li>・収穫量 アワ59kg、ヒエ45kg、キビ167.5kg</li> </ul>	<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地域へ素材の提供を試験的に行う。（新ひだか、札幌、千歳地域）</li> </ul>	



項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
空間 活用	試験 栽培	試験栽培事業 本町地区（水辺空間） → アマムトイ（雑穀畑） ポント（小さい沼） モセウシ（茅場）、カ ヤ等の試験栽培	<p>&lt;H21～22&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河川敷を穀物栽培、ヨシ・ガマの栽培地として整備 アマムトイ（穀物畑） アワ、ヒエ、キビの試験栽培</li> <li>ポント（沼）：ガマの根株を移植</li> <li>モセウシ（茅場）：ヨシを大株法で移植</li> <li>水辺空間において、ヨシ941株、ガマ50株移植。（H23）</li> <li>穀物は収穫に至らず。（H23）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガマは、H21の活着状況が悪かったが、H22は根を地面に固定し移植した。</li> <li>H21の栽培状況から、大株法による移植が根付きが良かったことから大株法による移植を行うこととした。</li> <li>ヨシの活着率は、98%と良好であった。</li> <li>ヨシはモニタリング調査を行い、前年との比較成長で順調に生育している。ガマは4、5月に鹿の食害を受けたがネットを張った結果回復した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栽培を継続的に実施し、生産（栽培）技術を確立することが必要（平成22年度末には技術確立の目的が立つ予定）。</li> <li>先行地域として、道内の伝承活動実践者への素材提供体系の検討が必要</li> <li>栽培技術の確立と必要数量に見合った栽培管理が必要</li> <li>近隣でのカヤの採取場所が減少しており、採取場所の確保が難しい。</li> <li>自然素材の成長を妨げない雑草の除去対策について検討が必要。</li> <li>当面は、必要とする素材量を勘案した栽培面積とするなど管理費の軽減を図ることも必要。必要とする自然素材を確保するため、近隣の河川敷での生育を把握する必要がある。（H23）</li> </ul>
			<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水辺空間に、ヨシ63㎡、ガマ43株移植 ガマ：286株→1,608株 モニタリング調査の実施 ガマ収穫し、トマを製作。</li> <li>穀物（アワ、ヒエ、キビ等）の試験栽培、生育管理 収穫量 アワ28kg,ヒエ21.5kg</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング調査の結果、ヨシは前年との比較で順調に生育。</li> <li>植栽したガマは、環境に順応し良好に成長した。</li> </ul>	

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題	
空間活用	体験交流	体験交流事業 → アイヌ文化への理解の促進を図るため、体験交流事業を実施	体験交流事業	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コタン、水辺空間、イオルの森において体験交流事業を実施 山菜収穫体験 トマ編み体験 イナウ製作体験</li> <li>・ 穀物収穫体験(H22) アシチエプノミの実施 サケの伝統捕獲漁法体験</li> <li>・ 23年度 山菜採取、トマ編み、アソチエプノミ、イコタ体験等、 参加者 363名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践活動として、出来る事業から開始した。地元の関係団体の協力が得られ、理解の促進が図られている。</li> <li>・ 参加者の関心が高く、アイヌ文化の振興への効果が表れてきている。</li> <li>・ 地元、関係団体と連携が図られ、各種事業が推進されている。参加も町外にも呼びかけ、徐々に増えてきた。(H23)</li> <li>・ 23年度、新たにイオルの森で植樹体験を実施し、地域ぐるみで育てて行こうという醸成が出来てきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加対象を近隣市町村又は道内全域に拡大するなど先行実施地域としての展開が必要。</li> <li>・ 当面使用する材料のオヒョウ、シナ材等の確保対策が必要。</li> <li>・ 今後、アイヌ文化を伝承・保存していこうという意識づけをはかるような内容にしていくことが重要。</li> <li>・ 体験交流をとおして恒常的な普及啓発を可能とする仕組みづくりが必要(イカ応援隊)</li> <li>・ 当面、体験事業で必要とする素材(オヒョウ、ガマ等)の確保対策が必要。(H23)</li> <li>・ 参加が隔たらないよう広くPRし、アイヌ文化の普及啓発に努める必要有り。</li> <li>・ アイヌ文化を伝承・保存していこうとする意識付けを図るような内容にしていくことが重要。</li> </ul>
				<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山菜採取、イナウ(トマ編み)、イナウ(イナウ削り)、イナウ(穂ちぎり)、アソチエプノミ、イオルの森散策・植樹、イコタ体験</li> </ul> <p>参加者 330名</p>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元、関係団体と連携が図られ、各種事業が推進されている。参加も町外にも呼びかけている。</li> <li>・ イオルの森植樹は、前年に続き町民も参加し、地域ぐるみで育てていく機運が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業のマンネリ化にならないよう、企画内容を検討していくことが必要。</li> </ul>
事業の管理運営	管理運営	管理運営業務 平取町役場による連絡調整 イオル推進事務所の運営	平取町アイヌ文化振興推進協議会(事務局:平取町)による関係機関等との連絡調整	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イオル専門委員会、検討部会(コタン、水辺、イオルの森)の設置</li> <li>・ 各空間の事業内容検討</li> <li>・ 各空間における伝承活動や体験交流事業の検討</li> </ul>	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進協議会が事業の推進管理や関係機関との連絡調整を図った。地域内の合意形成に意を払っている。</li> <li>・ 協議会にとどまらない受け皿母体を立ち上げる必要あり。</li> </ul>	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き推進協議会での合意形成を図りながら事業を推進する必要がある。</li> <li>・ (中長期) 事業推進母体の検討と組織・体制の充実。</li> </ul>
				<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イオル専門委員会、検討部会(コタン、水辺、イオルの森)の開催</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進協議会が事業の推進管理や関係機関との連絡調整、地域内の合意形成に意を払った。</li> </ul>	

<札幌地域>

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題	
推進体制	事業の推進体制	・札幌市においてアイヌ協会札幌支部とで構成する札幌地域イオル再生事業運営委員会設置し、事業計画・管理運営などについて協議	<H24> ・札幌市において、イオル再生事業運営委員会を設置し、空間活用事業を実施した。	<H24> ・事業初年度ということもあり、メニューの企画、募集等に労力を要したが、参加者が多く反響があった。	<H24> ・札幌市を中心に関係機関や団体との連携を一層強化する必要がある。	
空間形成	空間活用	ライブラリー事業	・石狩アイヌに関する聴き取り調査	<H24> ・浜益や石狩に長く住んでいた方やアイヌ民芸に携わってきた5名の古者から、アイヌの生活や文化の状況の聴き取り調査を実施。 ・文献調査も実施 石狩アイヌの歴史など7項目について調査した。	<H24> ・家庭やアイヌを取り巻く社会の状況が、聞き取りをとおして記録することが出来た。 (再委託：アイヌ協会札幌支部)	<H24> ・石狩アイヌの末裔が少なく、多くの事を知っている方の掘り起こしが必要。 ・要。 聞き取りの項目について、整理が必要。
自然素材育成	栽培 植栽	自然素材育成	・穀物や有用・薬用植物の栽培地の造成、栽培	<H24> ・事業用地の再検討	<H24> ・市内の適地から候補地を検討する。	
空間活用	体験交流	体験交流事業	・市民を対象に体験交流事業の実施	<H24> ・アイヌの民具づくり講座（お盆づくり、2回） ・アイヌ料理の調理と試食体験（3回） ・野山での子どもの遊び体験（かんじき、弓づくり：2回） 参加者数110名	<H24> ・民具づくり（お盆イタ）は、アイヌ文化の説明や丁寧な指導方法で、受講生の評判が良かった。 ・かんじき・弓作りと完成品で遊ぶには時間が足りないほどであったが、子どもたちは遊びながらアイヌ文化を学ぶことが出来た。	<H24> ・実践・普及型イオルとして、今年度以上にアイヌの伝統や文化等の学習を盛り込んだ形で進める必要がある。
事業の管理運営	管理運営 →札幌市による関係機関等との連絡調整	・管理運営するため、関係機関との連絡調整等	<H24> ・イオル再生事業運営委員会を開催し、基本方針について検討。(11月)		<H24> ・自然素材栽培地の確保が早急に求められる。	

<連携促進事業その他の取組>

項目	事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
連携促進	ネットワーク →各地域の特性の分析、具体的連携方策等の検討調査。各地域の情報共有化等を図るための取組	ネットワーク会議の設置 ・ イオル事業実施地域及び予定地域との情報共有、連携	<H18~23> ・ ネットワーク会議の開催 各地域の取組について 地域の準備状況について 札幌地域の計画の策定（H23）	・ いずれの地域においても、地域の特性の分析、役割分担、連携方策及び地域での体制づくりの検討整理を進めているところ。	・ イオル事業の実施を希望する地域の特性の分析、役割分担、連携方策及び事業計画の検討整理を進める必要がある。
			<H24> ・ 新ひだか地域の計画策定 計画内容について、地元市町村、支部と協議 計画案について第三者から意見聴取（1回） ・ ネットワーク会議の開催（3月）	<H24> ・ 4番目のイオル再生事業実施地域として新ひだか地域を採択できた。	
ライブラリー	ライブラリーの構築、充実 →地域の伝承者、文献、生活文化について調査し、データとして保存・活用	ライブラリーの構築 ・ 伝承者等調査（白老） ・ ライブラリー（白老） ・ 伝承者等調査（平取） ・ ライブラリー（平取）	<H19~22> ・ 白老地域アイヌの伝統・文化ライブラリー構築の基礎調査 ・ ライブラリーの構築 →白老地域の伝承者情報等集積 … ・ 平取地域アイヌの伝統・文化ライブラリー構築の基礎調査 ・ ライブラリー情報の追加 →平取地域の伝承者情報等集積 …	・ 著作権法第32条等の条項との関係で、著作権等の整理が必要。 【整理事項】 引用の出典元の明示 著作権所有者の了解	・ 著作権等の整理とライブラリーの効果的、効率的な運用について検討が必要。
伝承者育成	伝承者育成事業	・ 伝承者の育成	<H20~22> ・ (財)アイヌ民族博物館に委託し実施 ・ 熟練された伝承者の指導のもと、アイヌ文化に関する総合的・実践的知識や教養を身に付けるための「伝承者育成事業」を実施 受講生：8名（修了生5名）  【修了生の進路】 ・ (財)アイヌ民族博物館に臨時雇用 ・ 大学進学 ・ 結婚し、講師等として活動	<H20~22> ・ 動植物の利用部位、採取時期、処理法、利用法が習得できた。 ・ 自然素材を活用した手工芸等の技術の習得ができた。 ・ アイヌ語の文法、アクセント、訳文、表記法を習得。 ・ アイヌの世界観を伝統儀礼をとおして習得できた。	<H20~22> ・ 受講中止者が出たことから、新たに開始する場合は、募集段階において志望動機、研修目標などについて面談を行うなどして本人の研修に対する意欲を把握し、中途辞退者がでないよう対策が必要。 ・ 事業終了後（23年度以降）の受講修了者の実践活動の場の確保 2期目の伝承者育成の検討 受講者決定段階での本人の志望動機、研修目標等意向を把握。 ・ 動植物の知識の充実 ・ 模擬授業を充実させより実践的な研修を目指す

項目		事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題
連携促進	伝承者育成	伝承者育成事業	・伝承者の育成	<p>&lt;H23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2期目伝承者育成事業開始(H23)公募により、5名の研修生を採用カムイノミ等伝統儀礼へ参加をとおして、イナウ、エムシ祭具の製作、祈り詞からアイヌ語の謡など実践的な実習を実施。サケを素材として、生態観察、食加工、魚皮の処理・加工、膠作りなど学習。</li> </ul>	<p>&lt;H23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の研修生は、これまでもアイヌ語や古式舞踊等活動実践者が多く、研修への意欲も高く、積極的な取組姿勢が伺えた。</li> </ul>	<p>&lt;H23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物に対するフィールドでの実習は出来ているが、動物(サケ漁、シカ猟などとおした利用・加工)に関する実習について今後検討。</li> </ul>
				<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に出かけ儀式・儀礼に参加し、祈り詞、道具の扱いなどを実践</li> <li>・シカ猟に同行し、解体処理を実習</li> <li>・木彫技術の習得(平取:10日間)</li> <li>・丸木舟による操船技術の習得</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修であるアイヌ語については一部苦手意識はあるものの、財団の指導者研修にも参加するなど積極性が見られる。</li> <li>・自ら製作した道具や楽器(トコリ)を実習に活用することで研修への意欲が高まった。</li> </ul>	<p>&lt;H24&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野山や川での実践に加え、新たに海洋での実践フィールドの検討。</li> <li>・地方差のある文化について、現地のアイヌの人たちとの交流をとおした習得の検討。</li> </ul>
調査	自然素材調査等	<p>カヤ等に関する情報収集検討</p> <p>自然素材必要量把握</p> <p>植生調査</p>	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(財)アイヌ民族博物館に委託しカヤに関する調査実施(伊達、豊浦、長万部方面での分布状況を調査し、環境特性、現況図作成)</li> <li>・白老、平取地域の自然素材必要量の調査を行う。</li> <li>・財団の直近3年間の助成事業及び講座などでの自然素材(樹木)の使用量を調査</li> <li>・イオル候補地の植生調査の実施(H22)札幌、新ひだか</li> </ul>	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採集にあたって、カヤの生育状況・収穫量、土地の所有者などのデータが必要。</li> <li>・関係者の協力を得る上で前提となる各地域での伝承活動の実績を踏まえた自然素材の必要量、過不足を把握する必要がある。</li> </ul>	<p>&lt;H21~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チセ建設に必要とするカヤが不足しており、道内におけるカヤの分布状況の把握が必要。</li> <li>・(中長期)白老、平取以外の地域の活動実績、自然素材の使用量等の把握が必要。</li> </ul>	
規制緩和	規制緩和	・規制緩和についての調査検討等	<p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白老地域において、国有林内にイオル事業を実施するため、森林管理局と協定を取り交わし、平成18年に植栽を行ったが、協定において、「土地、立木等の所有権を有しない」となっている。</li> </ul>	<p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利活用に向けた信頼関係構築「有識者懇談会報告書の取りまとめ後、森林管理局がアイヌ文化伝承のための樹木等の迅速な売払いについての全道の森林管理(支)署長に通知(事務連絡)を発出するなど、規制緩和等が議論された当時から大きく状況が変化した。この変化を踏まえ、関係者と信頼関係を築くことが重要。</li> </ul>	<p>&lt;H18~23&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利活用に向けた関係者の連携促進「有識者懇談会」が提言する「土地・資源の利活用」の観点から、アイヌ協会が関係者と意見交換を行っているため、イオル事業の実施者としての立場から、財団も加わり情報共有を図る。また、イオル事業の推進には、地元関係者の連携が重要。引き続き、関係者との連携に努める。例えば、伝承活動等のうち、体験交流事業など「利活用」の視点で関係者と連携を深めることが重要。</li> </ul>	

項目		事業名・事業概要	事業項目	実施結果	評価	今後の課題			
連携 促進	規制緩和	規制緩和	<ul style="list-style-type: none"> <li>規制緩和についての調査検討等</li> <li>自然素材の利活用に係る調整の場の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林管理部局と協議をおこなったが、全国一律の扱いなので難しいこと。</li> <li>国有林野法上、立木の無償売りの扱いは、困難という結論。</li> <li>保安林に指定されているが、有償使用許可により地元（町）が借受ける方法がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（参考）「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告書はイオル事業について、実施地域の関係者が土地・資源の利活用の観点からの協力が必要と提言。</li> <li>国有林の使用許可は、財団ではなく、林業の専門的ノウハウを持つ職員がいる地元市町村が申請せざる得ない状況、使用料も発生し、永年に渡る管理をどうしていくか検討を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地・資源の利活用を図るためには、アイヌの人々、行政等の関係者が国有地や海面・内水面での自然素材の利活用等に関して必要な調整を行う場の設置を検討する必要がある。</li> <li>国有林を使用した自然素材の栽培にあたっては、使用料などの経費が永続的に発生するなど、課題があり、引き続き森林管理局など関係機関と協議していく必要がある。</li> </ul>			
				<H23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然素材の利活用等連絡会議の設置に向け関係機関と協議を行う。</li> </ul>				
				<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平取地域自然素材等利活用連絡会議 国有林の活用策について提案有り</li> <li>白老地域自然素材利活用連絡会議</li> </ul>	<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡会議で国有林の活用策について平取地域においてプロジェクト会議を設置し検討開始した。</li> <li>会議を開催したことで、地元の出先機関においても、アイヌ文化に対する認識が変わりつつあることが確認できた</li> </ul>	<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2地域以外での設置の検討。</li> </ul>
連携 促進	財団事業の活用	財団事業の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>財団の既存事業を活用し、地域において機能の充実を図る。</li> </ul>	<H18～23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白老地域 アイヌ文化フェスティバルの開催 アイヌ語上級講座 親子のアイヌ語学習</li> <li>平取地域（H20～） アイヌ語上級講座 親子のアイヌ語学習</li> </ul>	<H18～23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存事業を活用することで、地域の取組みに厚みが増した。</li> </ul>	<H18～23>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財団の既存事業を活用し、地域での取組の底上げを図る。</li> <li>財団事業とイオル事業との連携強化</li> </ul>
				<H24>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財団事業を実施地域及び未実施地域で開催</li> <li>アイヌ語上級講座（白老、平取）</li> <li>親子のアイヌ語学習（白老、平取）</li> <li>アイヌ文化フェスティバル（釧路）</li> </ul>				